

薬語

[99]

松阪地区薬剤師会

高齢でも発症、花粉症

木の芽起こしの雨に、春の訪れを実感する季節、皆さまいかがお過ごしでしょうか？

春を迎えて暖かくなるとスギなどの樹木の成育も活発になり、花粉が多く飛ぶ時期になります。以前は年齢とともに『花粉症』と言われるアレルギーの症状は緩和してい

くと考えられていたものが、実はそうでもないようです。

70歳以上のスギ花粉症はここ20年で10%以上も増えています。花粉症の治療薬はくしゃみや鼻水、目のかゆみなどを起こすヒスタミンという体内の物質の働きを抑えて症状を和らげます。

飲み薬や点鼻薬、点眼薬などがあり、医療用と同じ成分の物も市販されています。最近では副作用が少ない薬が多くなってきましたが、それでも飲み薬は眠気や口の渇き、動悸（どうき）などが起こる場合があります。

す。

中でも眠気が出やすい薬は、思わぬ転倒によるけがや、全身の倦怠（けんたい）感、物忘れなどが起こりやすくなるため



注意が必要です。

唾液の分泌量が少ない方は食事の際の飲み込みに影響したり、緑内障や前立腺肥大の方は使えない薬もあるため、気になる場合は医師に確認しま

しょう。

また外用剤を使うことで全身への影響を少なくすることもできるので、薬剤師に相談してみましよう。

花粉飛散が多い日の外出は、帽子やマスクの着用を心掛け、外から帰ったら衣類に付いた花粉を外で払い落として減らしましょう。また家に入ったら手洗いやうがい、洗顔で体に付いた花粉を洗い流しましょうね。

来る春を穏やかに過ごせましょう。

(薬剤師 西 美香)